



地域日本語支援ニュース こだま 第 269 号

2015.1.22



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

====目次=====

1■ともに生きる■

ラムさんご寄稿「外国人が受けられる検診のありがたさ」

2■お知らせ■

AJALT 公開講座「落語、新しいつながり」講師：柳家さん喬師匠

2月20日（金）開催 於：昭和女子大学

=====

1■ともに生きる■

外国人が受けられる検診のありがたさ

LAM MANG (ラム マン)

20年前に来日したラムさんは日本語を猛勉強して関西の大学を卒業し、今は通訳として働いています。地方自治体で実施される「健康診断」は日本人でも軽視されがちですが、言葉の壁がある外国出身の方は、制度自体を知らない人も多いかもしれません。ラムさんはお母さんの実体験から健診の重要性とありがたさを述べています。

-----☆☆☆☆☆☆☆☆

◆20年前に来日して◆

私はミャンマーの西部にあるチン州に生まれ、元首都のヤンゴンで、一般の公務員家庭の次女として育ちました。今から約20年前に来日しました。日本語が分からない私にとって日本での生活は大変でした。日本で生活するために働

かなければならなかったので私も仕事を探しました。ある人の紹介で仕事が見つかりお弁当屋で働き始めました。社長はじめ周りの人たちが、日本語や分からないこと、様々なことを丁寧に教えてくださいました。この出会いのおかげで、日本での生活は恵まれたものになりました。

◆日本では誰もが検診を受けられる◆

その後離ればなれになっていた両親とも日本で再会することが出来ました。当時日本では短期ビザで来日している人も外国人登録が出来たため、両親も住んでいた区の区役所に行って登録しました。自分が住んでいる区では自治体が定めている年齢になると健康診断のお知らせが届きます。そこで、母は乳がんの検診を受けることにしました。ミャンマーではこのような制度が無いため、ミャンマーにいる人は乳がんの検診を受けるためにはお金を払わなければなりません。日本でもミャンマーでも女性は自分の胸を見せることに抵抗があります。また、医療制度は日本と異なっているので、ミャンマーでは医療費は100%払わなければなりません。そのため、貧富の差がそのまま現れて来てしまいます。日本では誰もが検診を受けられます。

◆早期発見のおかげで完治した母◆

その診断の結果、母は初期の段階の乳がんだったので、すぐに手術を受け無事に完治することが出来ました。それは女性にとって重要なことです。というのは、早期に発見出来なければ、胸を全部切ってしまわなければならないことにもなりますし、場合によっては命に関わることにもなりかねないからです。これは、日本に来たからこそ出来たことです。しかし、日本に住んでいる外国人の中にはこの制度を知らない、もしくは恥ずかしがって行かない人もいるかもしれません。自治体によって制度が違うところもあるかもしれませんが、区や市町村からの検診の案内が届いたら、行くようにしたほうがいいと思います。日本語が読めない人は周りにいる日本人や日本語が分かる人に聞くようにしてください。

☆皆様からのご感想をお寄せください☆
